

# HEARTFUL SKILLFUL POWERFUL

力のある  
教師になろう!

～確かな実践力を身につけた教員を志すあなたへ～

## 教員養成特別コース

- 本コースは、学部を卒業したみなさんが、大学院で実践力を高め、小学校現場で求められる確かな専門性を身につけた即戦力となる新任教員に成長することを支援します。

- また、これから免許を取りたい人を対象として、3年間をかけて小学校教諭の免許を取得しつつ教職大学院の本コースで学べる制度やカリキュラムが設置されています。

府 in the 江戸  
ふり回り>  
伎  
絵  
句  
たちが中心となり  
出した新しい文化  
がたくさん交流し、  
に広まった。

なぜ旅が流行したのが当時



どちらが  
より楽しい  
旅がごきげん?  
それ  
なぜ

貴族 武士

町人 農民



# 教職大学院 教員養成特別 コース

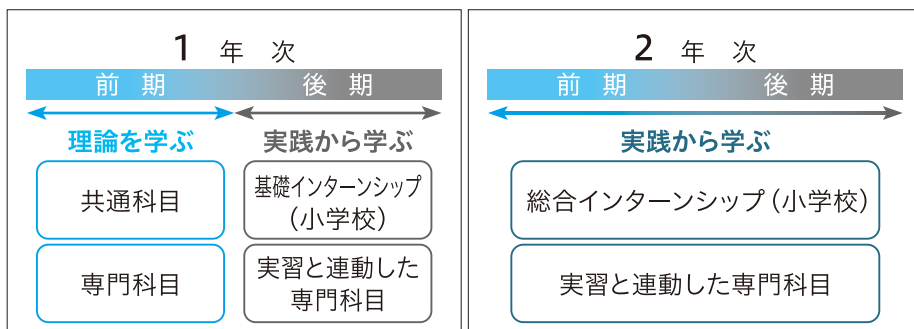
学部卒業生を対象としたコース

## 学校現場で身につける確かな実践力

～長期にわたるインターンシップ～

本コースでは、長期に及ぶインターンシップを行い、実習校の担任の先生と一緒に授業や学級経営、生徒指導などを実践します。1年次は鳴門教育大学附属小学校、2年次は鳴門市内の小学校での実習となります。特に2年次の総合インターンシップでは、学級開きの様子を一から学ぶため、4月から実習校で実習を行います。

実際の教育現場で子ども達と向き合う実践を重ねることで、教職のイメージを深めたり、確かな実践力を身につけることができます。



## 大学で学ぶ実践に即した理論

～省察と課題解決～



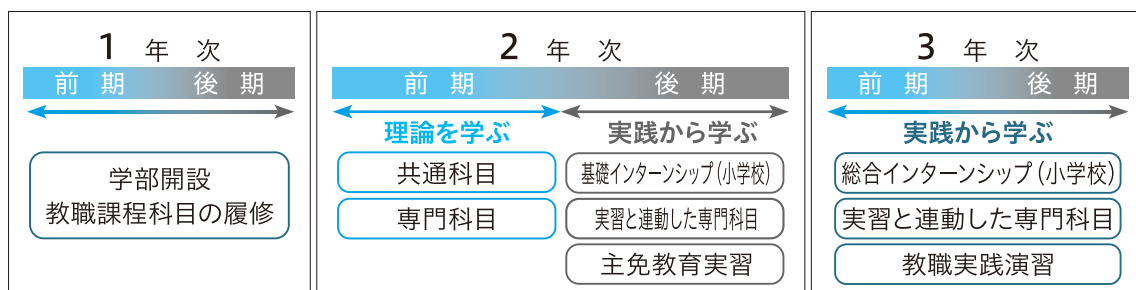
実習校で実践力を高める一方、大学では理論についてもしっかり学べます。本コースでは、大学院生が実習校で行う授業を支えるため、教材研究や指導案の作成、実施した授業の振り返りや課題の洗い出し等のサポートを行っています。コースの教員の半数は、学校現場や教育委員会等での実務経験のある教員です。

また、本学教職大学院には現職教員を対象としたコースがあり、幼・小・中・高等学校の現職の先生方が学んでいます。そのような現職の先生方と一緒に授業や演習を受けたり、教育について語り合ったりする中で、様々な教育現場の生の声を聞かれるのも本コースの特徴です。視野がぐんと広がり、教職の豊かさを学ぶことができます。

## 小学校教諭免許状の取得

～学校教員養成プログラム～

本コースでは、3年間という期間、在学しながら学部授業を履修することで、小学校教諭専修免許状を取得することができる制度があります。



## 授業やゼミの様子

～学校現場で役立つ授業～

本コースでは、「学級経営実践演習」「生徒指導実践演習」「教育実践の事例研究」「教職協働実践演習」など、学校現場ですぐに役立つ授業やゼミ等を開設しています。右ページに授業を受けての院生の感想や教員の声などを紹介します。授業やカリキュラム等の詳細については、別冊の大学院ガイドブックや本学ホームページ、本コースのウェブページ (<http://sr.naruto-u.ac.jp/>、もしくは右のQRコード) でも紹介しています。



## 学級経営実践演習A・B

[ねらい] 本授業では、学校での実践経験のある大学教員と学級経営についての協議を行うことを通して、実際の学習場面や生活場面を想定した学級経営の方針や具体的方策について考え、学級担任として学級経営を円滑に行う知識やスキルを習得することをめざす。

[感想] 今日の授業では架空の学級の実態をもとに、どのような学級にしたいか（理由含む）について低学年・中学年・高学年の3チームに分かれて議論し発表などをしました。やってみるとやはり抽象的な意見が多く、具体的に語る事が不十分でした。それはやはり、今まで具体的なビジョンを持ったことがないからではないかと私は感じました。これからの講義を通して自分の学級経営ビジョンをしっかりと構築していきたいと思います。

## 教育実践の事例研究A・B

[ねらい] 本授業は主として「学習指導要領と教育課程A・B」「教職協働実践演習II」と連携し、学習指導における教師の資質や能力について、附属学校の教育現場を訪問し、授業観察と授業検討を通して実践的な理解を深める。

[感想] 今回の観察を通して、主に学級経営や生徒指導における教師の具体的な手立てと児童の様子や反応を学ぶことができました。教科担任制であるにも関わらず、学年団で統一された指導や学級における決まりを意識して児童が生活していることなど、今後の参考となる点が多く見つかりました。私は、附属小学校の様子を一日観察して、まるで「小さな社会」を見ているように思えました。基礎インターンシップでは、自分が児童と関わる中で、さらに多くの学びを得られるようにしたいです。

## 基礎インターンシップ



[ねらい] 附属小学校において実習を行い、主として児童・生徒理解や授業実践など教師としての基礎的な実践力を身に付けることをねらいとする。

[感想] 大学院1年次の10月から11月にかけての5週間、同期の16名が、附属小学校において基礎インターンシップを行いました。担任の先生の様子から学ぶだけでなく自分自身も子どもの前に多く立ち指導しながら学びました。様々な教科の授業実践もたくさんさせていただき、実践した授業について大学の先生や同期の院生とゼミで振り返りをし、授業記録や授業映像を手掛かりに分析をしています。

## 教職協働実践演習II

[ねらい] 学卒院生にとっては、基礎インターンシップで行う授業実践について、現職院生に説明し、改善点についてアドバイスを得ながら、実践力、フォローアップの向上を図る。現職院生は、学卒院生に対して、適切なアドバイスの仕方を学び、リーダーシップ、協働力の向上を図る。

[感想] 私のチームは、小学校1年生の説明文教材「くちばし」の第3時の指導案を検討しました。メンバーの構成は、現職院生6名、学部卒院生3名、大学教員3名の構成です。現職院生の司会で検討を進めましたが、さすが現職、校種は中学校、高校の先生が多かったものの「1年生はどのように考えるのかなあ」「中学校だったらこうするんだけど」など、校種による視点の違いも生かしながら、そして、子どもをイメージしながら検討していました。そして、常に目標を意識しながら「何がわかればいいのか」「何を考えさせたいか」「ゴールは何か」など大きな視点をはずさない検討を進めていました。来週の授業実践研究で、今日の指導案検討も生かしながら、学部卒院生で模擬授業を行い、修正を加えさらによいものに仕上げていきます。

## ゼミの様子(教員の声)

授業の空き時間やゼミの時間に模擬授業を行うこともあります。以下、その際の様子を紹介します。

6年生の社会科「武士の政治が始まる」の導入にあたる、武士の館の様子の絵を元に、武士の暮らしの様子を調べようというものです。授業をはじめ前に教師用指導書を元に細案を約10分考え、その後約15分授業をしました。模擬授業では、子どもからの意見への問い返しや、発表された意見の処理に困っていた様子で、あとの検討会で話題になりました。その中で、教材研究によって教師が教材をしっかり把握し内容を押さえておくことが大切であること、武士の暮らしの特徴を観点で分けて板書したり、問い返しで意識させたりして、武士の暮らしを考える観点を見つけさせたり、その観点で絵をみて暮らしをイメージさせたりすることが大事なのではないかななどの話が出ました。合同ゼミでの模擬授業の取組を通して、細案が詳しく書けるようになってきています。子どもがイメージでき、子どもを生かした授業づくりに向けて力をつけてきていると思います。



## 100%合格プラン

### ～教員採用試験対策～

本コースでは、本学の充実した就職支援室のサポートが受けられると同時に、コース独自の教員採用試験対策である100%合格プランにおいて、筆記試験対策とともに、教育委員会で実際に面接試験を行っていた実務家教員による面接や模擬授業のサポートを受けることもでき、採用される確率がぐんと上がります。平成25年度から28年度の4年間は、学校教員就職率100%の成果をあげています。

## 出願資格

- 小学校教諭一種免許状を有する者（取得見込みを含む）。

注) 小学校教諭一種免許状を有する者（取得見込みを含む）は、学校教員養成プログラムの幼稚園教員養成プログラムあるいは中学校教員養成プログラムを申請することもできます。

- 小学校教諭二種免許状を有する者（取得見込みを含む）であって、幼稚園教諭、養護教諭、中学校教諭、高等学校教諭のいずれか的一种免許状を有する者（取得見込みを含む）。
- 学校教員養成プログラムの小学校教員養成プログラムを申請する者。

## 修了生からのメッセージ

### ～教壇に生きる体験～

4月から徳島市の小学校で働いています。元気いっぱいの子どもたちと一緒に笑ったり、困ったときには一緒に悩んだりしながら毎日をすごしています。昨年は教員養成特別コースで理論と実践を学んでいました。大学院での2年間の経験は私の頑張る力や支えになっています。長期の実習で実習校の先生の授業や学級経営を見させていただいたことは今の私の基礎となっています。改めて担任という立場に立って、自分で一つの学級をまとめ作っていくことの難しさや、子ども一人一人を育てていく責任を日々感じています。最初はわからないことも多かったのですが、周りの先生方が大変温かく教えて下さり徐々に仕事にも慣れてきました。学級経営のことや授業のことで悩むことも多く、そんなときには大学院の先生方が相談にのって下さっています。修了した後も温かくサポートして下さいることに、大変感謝しています。教師としてスタートをきったばかりですが、2年間自分の課題と向き合ってきたように、これからも教師としての自分と向き合い、子どもと向き合い、よりよい教師を目指して日々努力していこうと思っています。教師を目指す皆さんに是非このコースで学ぶことをおすすめします。

齋藤 友紀子（徳島県沖州小学校・4期生）



**私**は、現在、兵庫県の小学校で4年生の担任をしています。日々起こる出来事に戸惑いながらも、他の先生方に助けていただきながら、元気いっぱいの楽しい毎日を子どもたちと過ごしています。

教職大学院での2年間は、教育観や教育理念はもとより、授業の価値観を大きく変えてくれるものでした。例えば、私は、発問に対して、予想した子どもの答えや考え以外は受け入れられず、私が考えたとおりに授業を進めるという型にはまった授業しかできませんでした。しかし、1年半という長期にわたるインターンシップの中で授業実践をしたり、小学校現場の先生や大学の先生、共に学んだ院生の考えに触れたりする中で、徐々に児童が予想せぬ答えをした時でも、心からその子どもの考えをもっと知りたいと思い、「どうしてそう考えたの」と、子どもに寄りそい、理由を聴くようになっていきました。その時に学んだ「教師も児童も考えを聴き合い、話し合える授業」が、今の私の理想の授業像になっています。

教職大学院で、先生方にご指導いただいたり、インターンシップに行ったりする中で、自分の価値観や考え方が大きく変わり、自分の理想とする授業に一步近づけると思います。ぜひ、教員養成特別コースで学んでみませんか。

桑原 綾香（兵庫県小松小学校・8期生）

